

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4571900242		
法人名	社会福祉法人慶明会		
事業所名	グループホーム サンメリー		
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字岩知野355-1 (電話) 0985-75-2060		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月31日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国富町の中心部から東側に位置し、田園地帯が広がる中の、法人施設の一角にホームがある。ホームでは、利用者が食材の皮むきなど食事の下準備と、盛りつけ、配膳、下膳、茶碗洗いなど職員と一緒に支援を行い、利用者の残存能力の維持向上を図っている。また、食事の時、お酒を飲まれる利用者もいる。家族と共に、墓参り、食事、親戚の家に訪問、ドライブなど積極的に外出の支援を行っている。町内に4つのグループホームがあり、年4回の合同会議や勉強会などを通じて交流を行いサービスの質の向上に努めている。法人内で職員レクリエーションや食事会、茶話会を行ったり、職員の仕事に対して努力や実績などさまざまな部門で評価して表彰を行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

【情報提供票より】 (平成21年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年4月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6.2 人	常勤6人, 非常勤0.2人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500~31,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月26日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	4	要介護2	3
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86.2歳	最低 78歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいめい記念病院、増田病院、藤木病院 田中内科クリニック、しのぎき中央歯科
---------	--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、ミーティングで話し合い作り上げた。また、今回の改善点についても、ミーティングで話し合い検討して取り組む体制がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族の代表、区長、民生委員、医師など幅広い人が参加している。意見などあった場合、検討してサービスの質の向上に努めている。また、国富町認知症対応型共同生活介護連絡協議会が年4回あり、町、地域包括支援センター、グループホームなどが参加して意見交換など行いサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報誌、ホームの便りに職員の異動など載せて報告している。また、意見箱を設置したり、家族にアンケートを行っているが、苦情等は出されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの幼稚園、小学校、中学校を受け入れている。また、地区の行事や町民祭などに参加したり、向陽の里の利用者と合同で作品を作ったりして交流を行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とグループホームの目標があり家庭的な環境で地域住民との交流を行っている。ただ、ホームの目標に「地域住民との交流」の言葉がなかった。	○	地域密着型サービスになり、日々の活動の中で地域住民との交流を行なっているので、目標の中に明示することの検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標について、毎月のミーティングやカンファレンスの中で確認して日々の実践で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの幼稚園、小学校、中学校を受け入れ、地区の行事や町民祭などに参加したり、向陽の里と合同で作品を作ったり交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価をし、ミーティングで話し合い作り上げた。また、今回の改善点についてもミーティングで話し合っ取り組む体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族の代表、区長、民生委員、医師など幅広い人が参加している。その中で意見などあった場合、検討してサービスの向上に努めている。また、国富町認知症対応型共同生活介護連絡協議会があり意見交換など行いサービスに生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する質問やホームの運営など電話などで相談してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に生活状況を報告したり、広報誌、ホームの便りに職員の異動等を載せて報告している。また、金銭管理については、領収書受領証に署名、捺印をもらって確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、家族にアンケートを行なうが苦情等は出されていない。	○	苦情等への認識はあるので、今後更に家族が集まる機会に、意見などを出しやすい仕組み、雰囲気づくりを検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、利用者の影響を最小限に抑える配慮が行なわれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会、グループホーム連絡協議会、地域包括支援センターなどの外部研修、勉強会などにも積極的に参加している。ミーティングでは口頭で報告し、研修報告書を全職員に回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会や勉強会などに参加したり、町内の3グループホームと定期的に交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人と一緒に見学に来てもらい、雰囲気や環境を知ってもらい、納得・安心していただき利用につなげている。また、体験利用もできる体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から干し柿づくり、野菜の栽培、裁縫など教えていただく場面が多い。日々の生活の中で共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者に意思を確認している。意思確認が困難な利用者は、家族の来訪時に情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に意見を聞き、担当職員、医師、理学療法士、作業療法士、栄養士などが参加してカンファレンスが行われ、多くの意見を反映した介護計画書となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員全員でモニタリングを行い、状態に変化があれば、家族、主治医などの意見を聞き見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、ドライブなど利用者の要望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は家族が行っている。しかし、家族の都合が悪い時や緊急な場合は、看護師が付き添って支援している。家族への報告もその日に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、契約時に方針を説明して同意書を得ている。ただ、状況に応じた意思確認書はない。	○	重度化に伴い意思確認書を作成し、状況に応じて家族の意向を確認してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋を見学している時、利用者がトイレに入りドアが半分開いていた。職員がすぐに気づき閉められた。また、誘導の声掛けもプライバシーを配慮して行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが、利用者の体調や気持ちを配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事の準備から片づけまで、できることを行っている。食事の時にお酒を楽しむ利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回となっているが、毎日入浴を行っている。希望すれば毎日入浴ができる。気の合う利用者と一緒に入り、歌ったりして楽しく入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な能力を生かし、野菜作り、干し柿作り、掃除、金魚の餌やりなどを行って役割、楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	野外レクリエーションは、場所、食べたい物の希望を聞き、家族と一緒に過ごせる機会がある。ドライブは、弁当を持って戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中かけていない。徘徊の利用者がいるが、気分や状態を観察して対応することで、玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地元消防団、近所の住民など参加して法人3施設の合同の総合訓練とホーム単独の総合訓練を実施して記録にも残している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量をチェックして記録を行い情報を共有している。また、管理栄養士の献立により栄養バランスを確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の一角に居間があり、掘りごたつ、掛軸の掛かった床の間など落ち着く空間がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのタンス、壁掛け、写真など持ち込まれている。家族に協力を働きかけている。		

※  は、重点項目。